

平成 25 年版

The Environmental Report of Izumo City

出雲市環境レポート

平成24年度(2012)のまとめ

出 雲 市

目 次

I	はじめに	1
II	出雲市の環境の状況	
1	生活環境	2
2	自然環境	6
3	快適環境	7
4	地球環境	8
5	循環型社会の構築	10
III	出雲市の環境への取組	
1	澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち	
1-1	大気環境の保全	11
1-2	水環境の保全	12
1-3	健康に暮らせる環境の保全	15
2	人と自然がふれあい ともに生きるまち	
2-1	野生動植物との共生	18
2-2	豊かな自然とのふれあい	19
2-3	森林と農地の保全と再生	20
3	悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち	
3-1	景観保全と緑地の確保	25
3-2	環境美化の推進	27
4	地球を考え 地域から実践するまち	
4-1	地球温暖化防止の取組	29
4-2	地球規模での環境問題への取組	34
5	「もったいない」の心で築く 循環型のまち	
5-1	廃棄物対策と資源循環の推進	35
5-2	環境と経済の好循環の推進	38
6	ともに学び行動する 環境意識が高いまち	
6-1	環境学習・環境保全活動の推進	39
6-2	環境情報の提供と共有	40
IV	出雲市役所の取組	
1	「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の概要	42
2	平成 24 年度の取組結果等	43

I はじめに

出雲市では、平成 19 年 3 月に「出雲市環境基本計画」を策定しましたが、計画策定以降、東日本大震災を契機とした国のエネルギー政策の見直しや斐川町との合併による市域の拡大など、本市を取り巻く状況は大きく変化し、新たな課題に取り組む必要が出てきたことから、平成 25 年 3 月、第 2 次出雲市環境基本計画を策定しました。

また、地球温暖化防止や省エネ対策等の取組を市、市民、事業者が協働して推進するため、平成 20 年 2 月に「出雲市地域省エネルギービジョン」を策定しました。

さらに、市役所職員が率先して環境に配慮した事務事業の実践に取り組むため、平成 17 年度から市の機関において取り組んでいる「いずもエコオフィス・アクションプログラム」について、斐川町との合併に伴い増加した職員、施設をこの計画の対象に加え、平成 24 年 3 月、新たに「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」を策定しました。

出雲市環境レポートは、出雲市の環境の状況等を明らかにするとともに、これらの計画に掲げた施策や目標の進捗状況を点検・評価することで、市民の環境への関心を高め、情報の共有を図ることを目的としています。



築地松

II 出雲市の環境の状況

私たちの暮らしは、大気や水などの生活環境、自然環境、地球環境など様々な環境基盤の上に成り立っています。出雲市の環境はどのような状況なのか、環境分野ごとに具体的なデータを交えながら報告します。

1 生活環境

(1) 大気環境

大気汚染は、工場・事業場等の固定発生源や自動車などの移動発生源から汚染物質が排出されることによって起こります。大気汚染物質の濃度が高くなると、人の健康や動植物の生育に悪影響を及ぼします。

ア 大気環境基準達成状況

市内では、出雲保健所で二酸化硫黄などの大気汚染物質を常時監視しています。

平成 23 年度の環境基準達成状況は次の表のとおりです。浮遊粒子状物質が未達成となった原因としては、松江气象台など多くの測定所で黄砂が観測されていることから、黄砂によるものと考えられます。また、光化学オキシダントは、汚染源のない地域を含めて全国的に濃度が増加傾向にあり、海外からの原因物質の移流が影響している可能性が指摘されています。

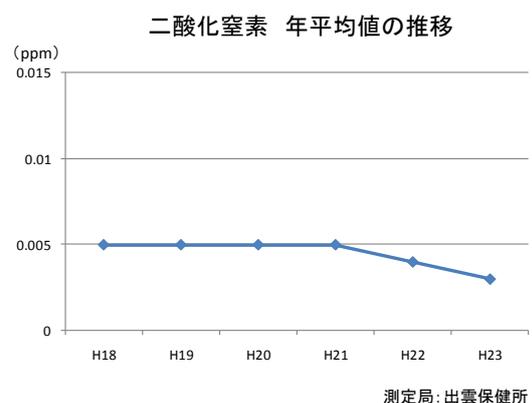
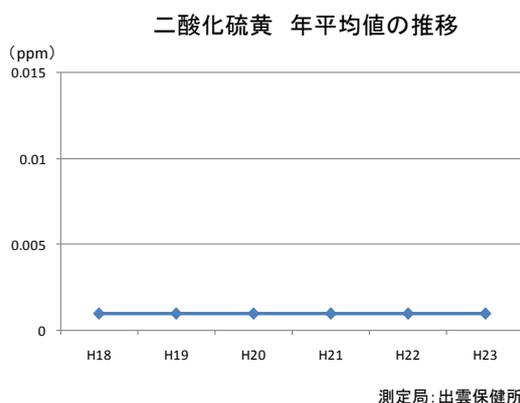
大気環境基準達成状況

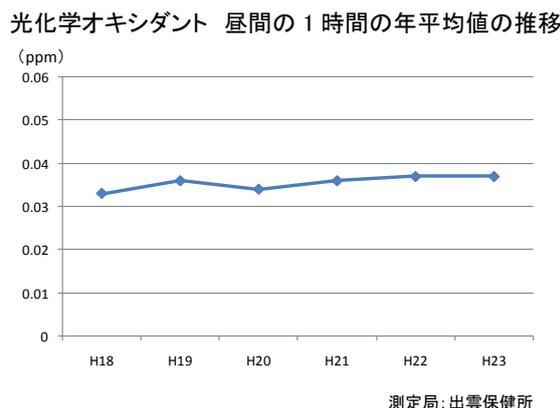
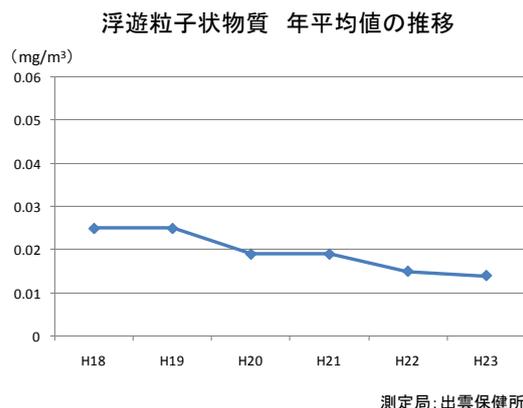
	基準年度 (H22 年度)	現状 (H23 年度)	環境基準
二酸化硫黄	○	○	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下で、かつ、1時間値が0.1ppm以下
二酸化窒素	○	○	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質	○	×	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1時間値0.20mg/m ³ 以下
光化学オキシダント	×	×	1時間値が0.06ppm以下

(注) 環境基準達成状況：○達成、×未達成

イ 汚染物質（年平均値）の推移

主な汚染物質ごとの年平均値の推移は次の図のとおりです。





年平均値の経年変化は、近年、二酸化硫黄と光化学オキシダントは概ね横ばい、二酸化窒素と浮遊粒子状物質は低下傾向を示しています。

(2) 水環境

市内の公共用水域について、35 河川、2 湖沼、1 海域で水質調査を実施しています。

このうち、環境基準の類型あてはめが行われている斐伊川、神戸川、平田船川、湯谷川の 4 河川 7 水域、宍道湖、神西湖の 2 湖沼 2 水域、おわし海水浴場の 1 海域 1 水域、計 10 水域において、水の汚れを表す代表的な指標である BOD、COD の環境基準達成状況をみると、平成 24 年度は、2 河川 5 水域、1 海域 1 水域の計 6 水域で環境基準を達成しましたが、2 河川 2 水域、2 湖沼 2 水域の計 4 水域で環境基準を達成しませんでした。

河川の水域別 BOD 環境基準達成状況(BOD75%値の経年変化)

水域名		環境基準			H19	H20	H21	H22	H23	H24
		類型	基準値	地点数						
斐伊川	本川	AA	1mg/l	2	0.7	0.6	0.6	0.8	0.6	0.6
神戸川	上流	AA	1mg/l	2	0.6	0.8	1.0	1.0	0.8	1.2
	下流	A	2mg/l	2	1.0	0.8	1.0	0.9	0.6	1.1
平田船川	上流	A	2mg/l	1	1.2	1.4	1.6	1.2	1.2	1.8
	下流	A	2mg/l	1	2.0	1.9	1.7	1.3	1.2	2.4
湯谷川	上流	A	2mg/l	1	1.2	1.1	1.2	0.8	1.0	1.5
	下流	A	2mg/l	1	1.4	1.2	1.2	1.0	1.0	1.5

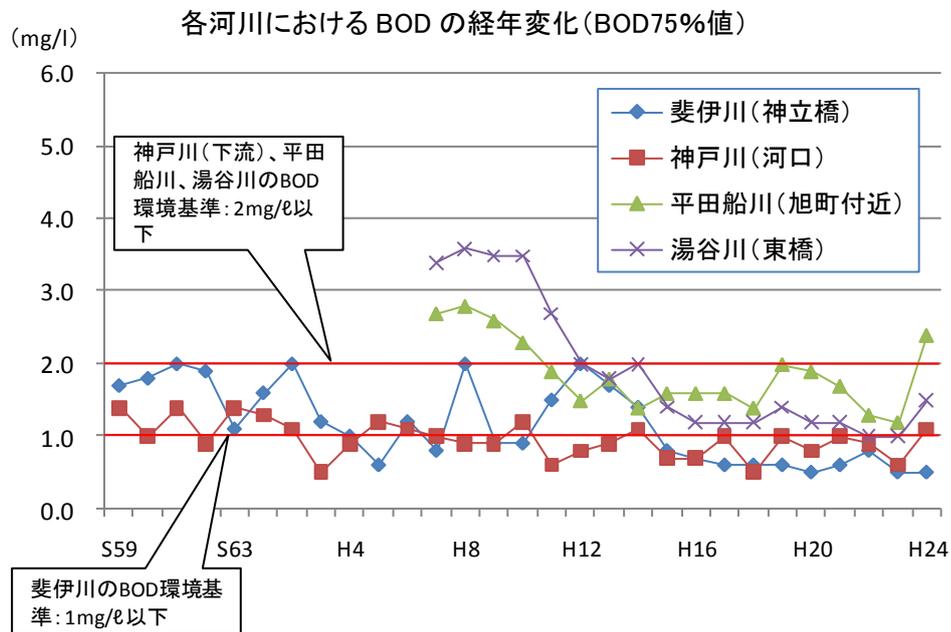
(注) 表中の経年変化数値については、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。また、網掛は基準達成したものを。(経年変化数値の単位はすべて mg/l)

湖沼・海域の水域別 COD 環境基準達成状況(COD75%値の経年変化)

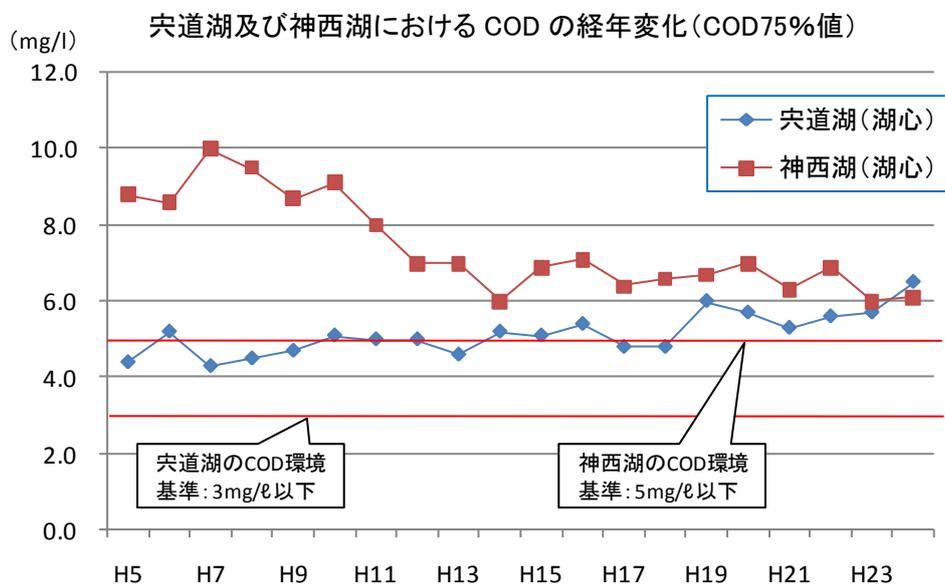
水域名	環境基準			H19	H20	H21	H22	H23	H24
	類型	基準値	地点数						
宍道湖	A	3mg/l	5	6.2	6.1	5.5	5.9	6.1	6.5
神西湖	B	5mg/l	2	6.7	7.0	6.3	6.9	6.0	6.1
おわし海水浴場	A	2mg/l	1	1.8	1.7	1.8	1.8	1.6	1.6

(注) 表中の経年変化数値については、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。また、網掛は基準達成したものを。(経年変化数値の単位はすべて mg/l)

河川の水質について、過去に遡って経年的に見ると、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及に伴って改善されてきており、近年は概ね良好な状況で推移しています。



一方、斐伊川水系、十間川水系の下流域を構成する宍道湖、神西湖の水質の経年変化を見ると、神西湖のCOD75%値は横ばい、宍道湖は増加傾向を示しています。



(3) 騒音・振動・悪臭

平成 24 年度に寄せられた騒音、振動、悪臭の苦情件数を見ると、騒音は 16 件で、前年度に比べて 5 件減少、振動は 1 件で増減なし、悪臭は 10 件で 2 件増加しました。全苦情件数に対するこれら 3 公害の苦情件数の割合は約 14%でした。

自動車騒音については、騒音測定を実施しており、平成 24 年度は、市内の主要な幹線道路に面する 3 区間の面的評価を行いました。今回評価対象となったのは 475 戸で、このうち昼夜とも環境基準を達成したのは 474 戸（99.8%）でした。

幹線道路の環境基準達成状況(平成 24 年度)

路線名	評価区間始点～終点	評価対象戸数	環境基準達成戸数	環境基準達成率
一般国道 9 号	大津町～今市町	177 戸	177 戸	100%
一般国道 431 号	小境町小境灘～平田町平田新田	153 戸	152 戸	99.3%
県道斐川出雲大社線	武志町～稲岡町	145 戸	145 戸	100%

(4) ダイオキシン類

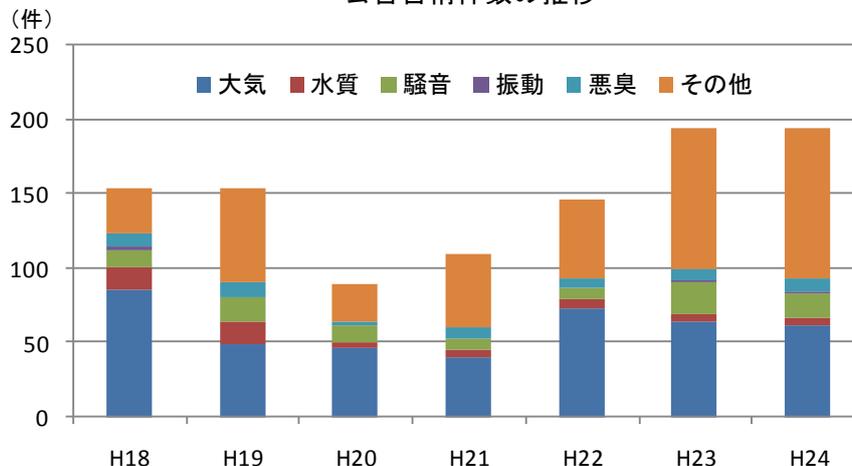
ダイオキシン類は、微量でも人の健康に有害な影響を及ぼすおそれのある物質で、市内でも、出雲保健所でダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視を行っています。平成 24 年度は、大気 2 地点、水質（湖沼・地下水）2 地点、底質（湖沼）1 地点で調査を行いました。すべての地点で環境基準を達成しました。

(5) 公害苦情

公害に関する苦情は市民の生活に密着した問題で、その適切な処理は地域の生活環境の保全や紛争の未然防止のためにも極めて重要です。

平成 24 年度に受理した公害苦情の件数は、前年度に比べて 2 件増加し 195 件でした。そのうち、廃棄物の野焼き等大気の苦情が 66 件で全体の 33.8%を占めており、市街地や新興住宅地、その周辺での苦情が増えています。

公害苦情件数の推移



2 自然環境

出雲市には、北山や南部の山地の森林、出雲平野の田園、日本海の砂浜や砂丘、岩礁、斐伊川や神戸川等の河川、宍道湖や神西湖等の湖沼など、生きものにとって多様な生息・生育環境があり、豊かな生態系が形成されています。

(1) 水生生物

出雲市では、平成13年度から公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託して「希少水生生物、外来水生生物、希少種の鳥類についての生息調査（出雲市自然環境調査研究事業）」を実施しています。

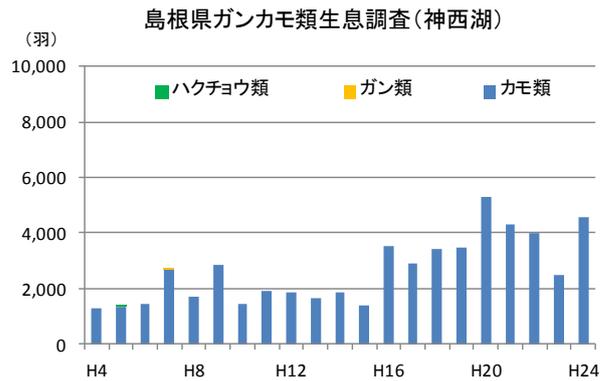
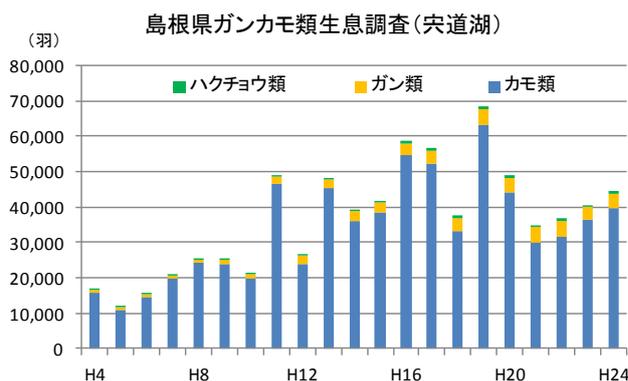
調査の結果から、市内の河川において、確認された200種を超える水生生物のうち、23種が県や国のレッドデータブックの掲載種であり、希少種が多い地域であることが判明しています。例えば、カジカガエルは特に神戸川中流域の本流・支流に多く生息していることが判明し、重要な生息地であることが確認されました。また、地域固有の在来種や希少種の生存を脅かす特定外来種のブラックバスの生息状況については、河川では限定的であり、平田地域を中心としたため池での生息が確認されており、密放流を防止するよう市民への啓発が重要となっています。

(2) 渡り鳥

宍道湖は、全国でも有数の冬鳥の渡来地で、中海とともに、ラムサール条約湿地に登録されています。

島根県が実施しているガンカモ類生息調査において、カモ類が一時大幅に減少していましたが、近年増加傾向にあります。また、ガン類、中でもマガンの飛来数が増加しています。

一方、神西湖においては、多数のカモ類が確認されています。



(3) 野生鳥獣の保護管理

シカは、出雲北山山地や湖北山地に生息し、造林木、果樹等を中心に大きな被害を発生させています。被害額はピーク時に比べて減少傾向にあるものの、依然高い水準で推移しており、捕獲等による積極的な対策を講ずる必要があります。

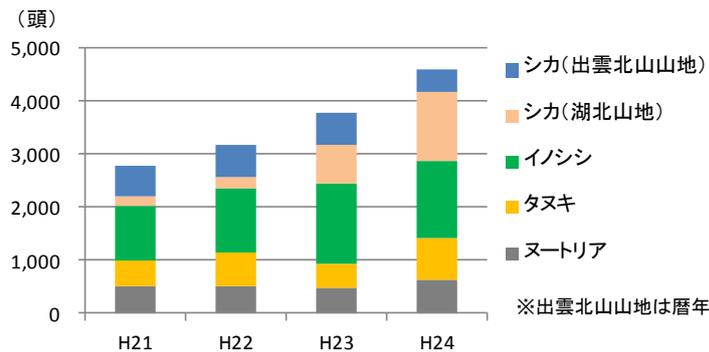
また、イノシシは、市南部の中山間地を中心に生息し、水稻等に被害を発生させて

います。近年は、北山山地へも生息域が拡大しています。

ヌートリアは、斐伊川・神戸川水系の下流域及び神西湖周辺を中心に生息し、野菜を中心に被害を発生させています。近年は、中山間地域の河川上流域、ため池などに生息域が拡大しています。

アライグマは、大社地域で生息が確認されており、出雲ナンキンへの食害や果樹への被害を発生させています。ヌートリアやアライグマは、外来生物法で特定外来生物に指定され、もともと本地域にいなかった種であり、生態系への影響も大きいと考えられるため、捕獲等による徹底的な対策を行う必要があります。

出雲市有害鳥獣捕獲班による捕獲数の推移



3 快適環境

(1) 公園緑地

出雲市の緑環境の基幹となる都市公園は、広域公園である県立浜山公園をはじめ、一の谷公園、真幸ヶ丘公園、斐川公園、湖陵総合公園、愛宕山公園の5か所の総合公園、2か所の地区公園、5か所の近隣公園、87か所の街区公園、5か所の都市緑地の計104か所です。そのほかに手引ヶ丘公園などの普通公園84か所、出雲健康公園などのその他公園17か所が整備されています。

出雲市の公園緑地(平成25年3月31日現在)

地域	人口	都市公園	普通公園	その他公園	計	1人当たり
出雲	89,895人	870,700m ²	99,537m ²	163,240m ²	1,133,477m ²	12.6m ²
平田	26,853人	289,025m ²	15,608m ²	88,092m ²	392,725m ²	14.6m ²
佐田	3,789人		2,572m ²	105,152m ²	107,724m ²	28.4m ²
多伎	3,759人		201,619m ²	56,273m ²	257,892m ²	68.6m ²
湖陵	5,491人	113,260m ²	465m ²		113,725m ²	20.7m ²
大社	15,187人	327,400m ²	999m ²	45,333m ²	373,732m ²	24.6m ²
斐川	27,900人	198,756m ²	9,416m ²	312,642m ²	520,814m ²	18.7m ²
計	172,874人	1,799,141m ²	330,216m ²	770,732m ²	2,900,089m ²	16.8m ²

(人口には外国人を含まない。)

(2) 築地松景観

出雲平野の自然と文化に根ざした築地松の織りなす景観は、出雲地方独特の景観であり、全国に誇れる本市の貴重な資産といえるものです。

しかし、近年は松くい虫の被害や築地松を剪定する職人の不足、そして生活習慣の変化によって、築地松景観が失われてきています。このため、築地松景観保全対策推進協議会では、平成 25 年 1 月から 3 月にかけて「出雲平野における築地松実態調査」を行いました。

築地松所有戸数

	H11 (前回)	H24 (今回)	増 (▲) 減	増 (▲) 減率
出雲地域	3,380 戸	282 戸		
平田地域		256 戸		
大社地域		94 戸		
斐川地域		882 戸		
湖陵地域		2 戸		
合 計	3,380 戸	1,516 戸	▲1,864 戸	▲55.1%

築地松所有本数

	H11 (前回)	H24 (今回)	増 (▲) 減	増 (▲) 減率
出雲地域	8,102 本	1,506 本	▲6,596 本	▲81.4%
平田地域	2,038 本	1,521 本	▲517 本	▲25.4%
大社地域	4,747 本	610 本	▲4,137 本	▲87.1%
斐川地域	7,614 本	7,091 本	▲523 本	▲6.9%
湖陵地域	—	3 本	3 本	—
合 計	22,501 本	10,731 本	▲11,770 本	▲52.3%

今回の実態調査結果を前回（平成 11 年）と比較してみると、

- ① 松枯れ被害は出雲平野西部で多く発生している。
- ② 出雲地域及び大社地域で松枯れ被害木伐倒後の補植の数が少ない。
- ③ 出雲地域を中心に、開発等に伴う市街地化による減少が見られる。

などが分りました。

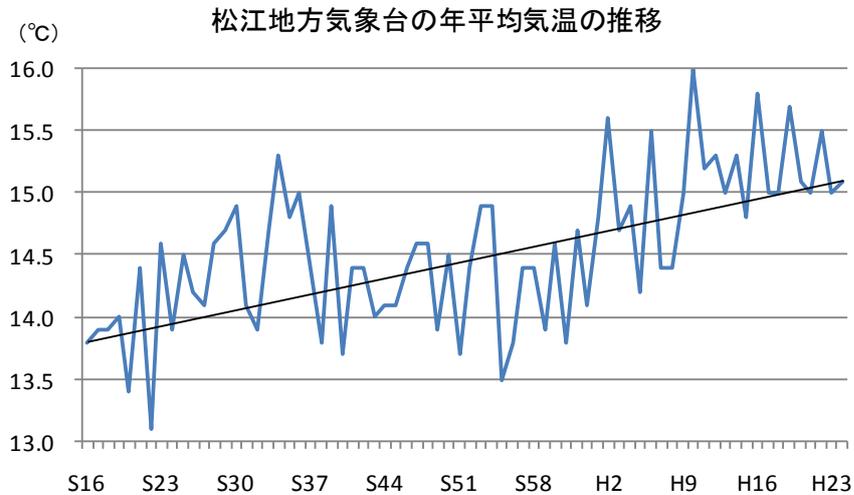
今後、築地松景観保全対策助成金制度の見直し、薬剤樹幹注入の有効性及び助成金制度の PR、築地松景観保全住民協定未加入地区への協定締結の働きかけ等を検討します。

4 地球環境

(1) 地球温暖化

平成 25 年 9 月に発表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 5 次評価報告書第 1 作業部会報告書（自然科学的根拠）では、今世紀末に地球の平均気温は最大 4.8℃、海面水位が同 82cm 上昇すると予測しており、20 世紀半ば以降に観測された温暖化の主な原因は化石燃料を燃やすなどの人間活動であった可能性が極めて高

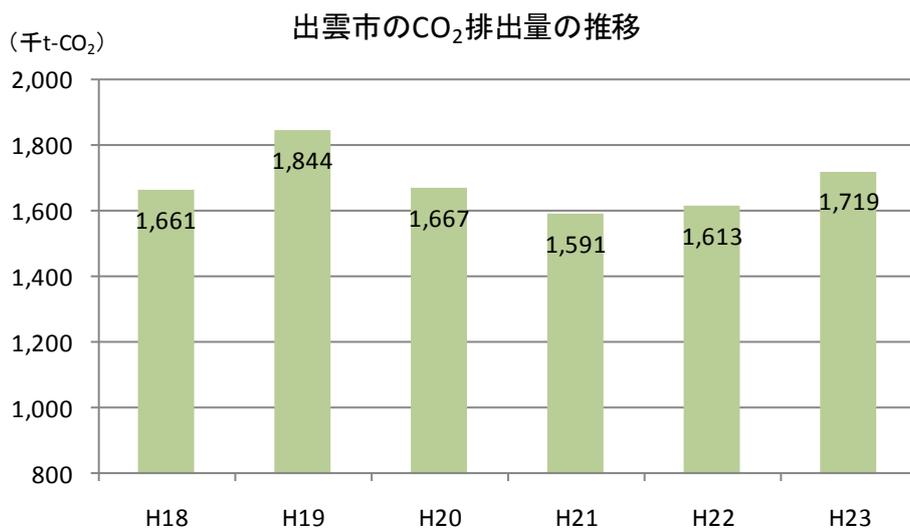
いと指摘しています。



松江地方気象台における平成 24 年の年平均気温は 15.1℃でした。昭和 16 年からこれまでの平均気温の推移を見ると、約 70 年の間に 1.3℃上昇していることとなります。こうした気温上昇の原因は地球温暖化によるものと考えられますが、そのメカニズムについては十分に解明されていません。

(2) 二酸化炭素 (CO₂) 排出量の推移

二酸化炭素 (CO₂) は、地球温暖化の要因となる「温室効果ガス」の 90%以上を占め、地球温暖化対策の目標指数となっています。出雲市の平成 23 年度の CO₂ 排出量は、出雲市地域省エネルギービジョンで定めた基準年度 (平成 18 年度) に比べると、産業部門、家庭部門、民生部門の増加により約 3.5% (約 58,000t-CO₂) 増となりました。目標とする平成 18 年度比 20%削減を大幅に下回る状況です。

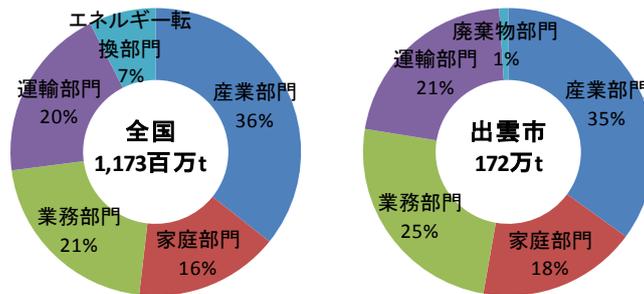


資料: 環境省HP「部門別 CO₂ 排出量の現況推計」より作成

平成 18 年度、平成 23 年度の排出量については、環境省が作成した「部門別 CO₂ 排出量計算シート」を用いて算定した。

部門別の CO₂ の排出割合を全国と比較してみると、出雲市は産業部門の割合が少し低く、運輸部門、民生（業務・家庭）部門の割合が高くなっています。これは、製造業などよりも、自動車の燃料用や家庭、オフィスビル等の空調・照明用などでのエネルギー消費が多いためと考えられます。

部門別 CO₂ 排出量の割合（平成 23 年度）



資料: 全国の排出量については環境省資料より作成

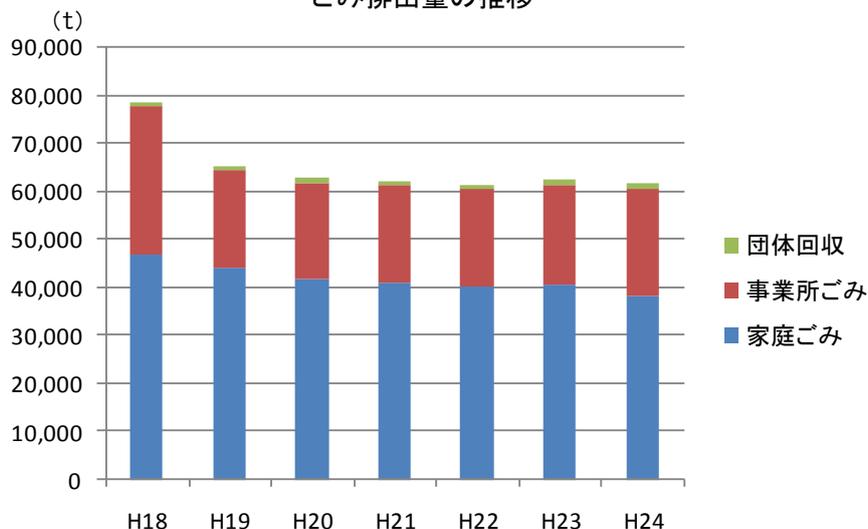
5 循環型社会の構築

ごみの減量・分別意識の向上等により、ごみの排出量は平成 19 年度まで減少していましたが、平成 20 年度以降は、横ばいの傾向にあります。

平成 24 年度の出雲市のごみ排出量（火災・災害ごみを除く）は 61,764t（対前年度 1.4%減）で、その内訳は家庭ごみが 38,456t（対前年度 4.4%減）、事業所ごみが 22,033t（対前年度 5.5%増）、団体回収が 1,275t（対前年度 13%増）となりました。

家庭ごみの組成を見ると、家庭から出る可燃ごみの約 60%が生ごみでした。生ごみは、その約 80%が水分です。

ごみ排出量の推移



Ⅲ 出雲市の環境への取組

「第2次出雲市環境基本計画」では、めざすべき将来の環境像「神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲」の実現に向け、6つの基本目標を掲げ、様々な施策を推進しています。その推進に当たっては、44の数値目標を定め、進行管理を行っています。

ここでは、数値目標の達成状況と平成24年度に取り組んだ主な事業の実施状況について報告します。

1 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

1-1 大気環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	大気汚染測定値(SPM) (環境基準 0.10mg/m ³ 以下)	0.015mg/m ³ (H22年度)	環境基準未達成 (H23年度)	環境基準値内	×
2	市公用車へのクリーンエネルギー自動車導入率(導入台数)	1.5% (8台)	1.7% (8台)	10.6% (58台)	△

【評価の判断基準】

○：中間目標値を達成した。

△：前年度値（基準値）より改善したが、中間目標値は達成できなかった。

×：前年度値（基準値）から状況が悪化した。



一畑電車

(2) 主な取組

① 一畑電車活性化事業 [交通政策課]

一畑電車沿線地域対策協議会（島根県、松江市、出雲市）を通じ、利便性の向上を図りました。

- 通勤定期券購入助成（4～12月） 654枚
- 通勤定期 エコ電定期券購入助成（1～3月） 179枚

- シルバー切符助成 5,423 枚

② 公共交通機関利用促進の啓発推進 [交通政策課]

公共交通機関利用促進に活用するため、市内全域のバス路線マップを作成しました。

③ 山陰本線鉄道利用促進事業 [交通政策課]

JR の活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」を通じ、利用促進を図りました。

- JR ダイヤポケット時刻表の作成・配布 15,000 冊

④ ばい煙、粉じん、野外等での不法なごみの焼却の監視、指導 [環境政策課]

島根県では、大気汚染防止法及び島根県公害防止条例に基づき、ばい煙・粉じん発生施設への立入調査を実施しています。出雲市では、ばい煙、粉じん、ごみの野外焼却に関する苦情対応として、出雲保健所と連携しながら発生人へ指導を行いました。平成 24 年度の大気環境に関する苦情対応件数は 66 件でした。

⑤ 佐田総合資源リサイクル施設管理事業 [農業振興課]

佐田総合資源リサイクル施設において、畜産農家から回収した糞尿を利用して製造した堆肥を稲作農家やぶどう農家等に販売することにより、耕畜連携、資源循環を図りました。

- 回収農家数 26 戸

- 家畜糞尿の収集量 6,855t

1-2 水環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	類型指定河川水質の環境基準達成率(斐伊川及び神戸川上流:河川AA類型、BOD 1mg/ℓ以下、神戸川下流、平田船川及び湯谷川:河川A類型、BOD 2mg/ℓ以下)	100% (4河川)	71% (2河川)	100% (4河川)	×
2	類型未指定河川水質の市基準達成率(BOD市独自基準 5mg/ℓ以下)	100% (12河川)	100% (12河川)	100% (12河川)	○
3	湖沼水質の環境基準達成率(宍道湖:湖沼A類型、COD 3mg/ℓ以下、神西湖:湖沼B類型、COD 5mg/ℓ以下)	0% (0湖)	0% (0湖)	100% (2湖)	×
4	海域水質(海水浴場)の市基準達成率(COD市独自基準 2mg/ℓ以下)	100% (6地点)	83% (5地点)	100% (6地点)	×
5	廃食用油回収量	47,466ℓ	35,077ℓ	47,500ℓ	×
6	汚水処理人口普及率	77.8%	78.1%	83.8%	△
7	水洗化率(接続率)	86.6%	87.9%	88.0%	△



穴道湖一斉清掃

(2) 主な取組

① 公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽などの整備 [下水道建設課]

生活排水対策は、水環境の改善、快適な暮らしの実現のため、不可欠な事業です。住環境を改善し、豊かな川や汽水域、豊かな海の再生をめざし、汚水処理施設の整備を図りました。

- 公共下水道整備面積 59ha
- 阿宮地区農業集落排水事業実施中
- 市設置合併処理浄化槽 37基
- 汚水処理（個人設置合併処理浄化槽） 237基
- 循環型（個人設置合併処理浄化槽） 6基

② 水質浄化、排水などに関する啓発活動 [下水道管理課]

「広報いずも」9月号、2月号に下水道への早期接続、下水道の正しい使用、各制度の案内を掲載し、水質浄化に関する普及啓発を行いました。

また、下水道未接続世帯に対し、文書送付や戸別訪問を行い、早期接続の促進を行いました。

③ 汚濁河川のヘドロ除去 [道路河川維持課]

年間を通して、河川、排水路の土砂撤去、藻刈り等を行いました。

④ 油の流出などの水質事故の未然防止と発生時の迅速な対応 [道路河川維持課、農林基盤課、環境政策課]

河川の草刈等で機械を使用する際の燃料補給方法等、油類の取扱について注意喚起・指導を行い、水質事故の未然防止を図りました。

また、オイル吸着マット等を常備し、発生時の対応に備えました。

交通事故等により自動車からガソリン、オイル類が農道、用水路等に流出した際には、油吸着材やオイルフェンス・マット等を使用し、二次被害発生の防止に努めました。

⑤ 河川の堰や排水機場のごみの適正処理 [道路河川維持課、農林基盤課]

堰や排水機場で発生した川ごみについて、その都度、分別を行い、適正処理を行いました。

⑥ 水質調査〔環境政策課〕

市内 54 か所の河川・農業用水路において水質検査を実施しました。いずれの箇所とも概ね環境基準を達成していました。

⑦ 生きもの調査〔学校教育課〕

学校から出かけて身近な自然の動植物を調査したり、校内で動植物を飼育栽培し、観察を行いました。渡りをする蝶であるアサギマダラの継続観測やシジミの生態調査など、各学校で地域にあわせた特色のある活動を行いました。

⑧ 河川や湖に親しむ体験活動〔学校教育課〕

学校の近くにある河川や湖に出かけて、動植物の生態調査や水質調査を行いました。また、市内 11 の小学校では、宍道湖でヨシの植栽等を行いました。

⑨ レベルアップサイエンスー大地の教室ー 斐伊川めぐり〔出雲科学館〕

斐伊川の下流、中流、上流の川の様子や砂の姿を観察しました。

⑩ 河川や湖の清掃活動の支援〔道路河川維持課、環境政策課〕

地域住民が組織する町内会、自治会及び団体がボランティア活動で行う河川の除草、浚渫活動（ふれあい愛護活動）を支援しました。

また、市民ボランティアによる斐伊川、宍道湖、神西湖の一斉清掃活動の際には、集められたごみの回収を市において実施しました。

⑪ 水産資源の保護〔水産振興課〕

「小伊津のアマダイ」として有名なアカアマダイの稚魚の栽培漁業に取り組みました。6cm 程度までに成長した稚魚約 5,000 尾を、小伊津・十六島沖の水深 80m 付近の海域へ放流しました。

また、漁業協同組合 JF しまね大社支所・平田支所が実施する放流事業（アワビ、サザエ、バイ、ウニ）へ助成を行いました。

内水面各漁協が実施する放流事業（宍道湖漁協／シジミ・ウナギ・スジエビ・フナ、神西湖漁協／シジミ、神戸川漁協／アユ）へも助成を行いました。

⑫ 漁場の良好な環境の保全〔水産振興課〕

神西湖漁協が実施する湖底環境の改善のための「覆砂」に関する施設整備等へ助成を行いました。

⑬ 保安林事業〔森林政策課〕

保安林がその機能を維持、発揮できるよう、巡視による管理を行いました。

⑭ 宍道湖一斉清掃〔環境政策課〕

6 月 10 日、平田・斐川両地域の宍道湖沿岸において一斉清掃を実施しました。参加者は 1,964 人、回収されたごみの量は 3.96 t でした。

⑮ 宍道湖水環境改善協議会〔環境政策課〕

宍道湖とその流域の良好な水環境の構築やシジミの生息環境改善を目的に、出

雲河川事務所、島根県、松江市、出雲市の4者で「宍道湖水環境改善協議会」を設立しました。宍道湖西岸において島根県などが覆砂事業を実施したほか、ヨシ植栽プロジェクト（松江市大垣町）、ヨシ刈り取り事業（出雲市出島町）を行いました。

⑯ 斐伊川水系水源の森づくり事業 [森林政策課]

斐伊川水系の上下流自治体が締結している「森林整備協定」に基づき、上流自治体を実施した造林事業に対し、下流自治体が負担金を支出することにより、下流域の水資源の確保や水系水質の保全を図りました。

● 整備面積

- ・雲南市 雪起し・下刈り 32.50ha
- ・飯南町 下刈り 15.68ha
- ・奥出雲町 雪起し・下刈り 23.70ha

⑰ 中海・宍道湖子ども探検クルーズ [環境政策課]

中海・宍道湖・大山圏域の小学生を対象に、8月2日、「中海・宍道湖子ども探検クルーズ」を実施しました。沿岸と湖心での水質の違いやシジミを守る取組を学習することで、宍道湖への理解を深めました。

- 主催 中海・宍道湖・大山圏域市長会
- 参加者 26名

(3) 課題と今後の方向性

数値目標のうち、平成24年度の「①類型指定河川水質の環境基準達成率」、「③湖沼水質の環境基準達成率（宍道湖、神西湖）」、「④海域水質（海水浴場）の市基準達成率」は、平成23年度（基準年度）より状況が悪化したため、「×」となりました。主要河川（神戸川河口、平田船川旭町付近）、湖沼（宍道湖、神西湖）、海域（おわし海水浴場）の各水域において、環境基準を達成しておらず、これら水域での水質改善対策が課題となっています。

污水处理人口普及率、水洗化率（接続率）の向上をめざし、一層の普及啓発に努めます。

1-3 健康に暮らせる環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	自動車騒音の環境基準達成率	100%	99.8%	100%	×
2	航空機騒音の環境基準達成率 (WECPNL値75以下)	100% (H22年度)	100% (H23年度)	100%	○
3	ダイオキシン類の環境基準達成率	100% (H22年度)	100% (H23年度)	100%	○



犬のしつけ方教室

(2) 主な取組

① 騒音、振動の発生源への監視、指導 [環境政策課]

市内には、騒音・振動規制法に基づき、事業場や建設工事による騒音・振動を規制する区域が定められています。規制区域内の事業場等から発生する騒音、振動が規制基準を超えている場合は、改善勧告や改善命令を行います。平成 24 年度は改善勧告等の事例はありませんでした。平成 24 年度において、規制区域以外も含めた騒音・振動に関する苦情対応件数は 17 件でした。

② 航空機騒音の実態把握とその対策 [斐川支所地域振興課]

島根県では、出雲縁結び空港周辺地域において、昭和 60 年から航空機騒音調査を行っています。平成 24 年度の測定結果は WECPNL 値 63.1～65.3 で、環境基準（WECPNL 値 75 以下）を満たしていました。

市では、出雲空港周辺の騒音対策のため次の事業を行いました。

ア 防音工事更新事業（空港周辺の対象家屋の防音工事費を助成）

- 件数 1 件

イ 空調機器更新事業（空港周辺の対象家屋の空調器の更新経費を助成）

- 件数 237 件

③ 夜間花火規制条例による規制 [環境政策課]

平成 18 年に制定した出雲市夜間花火規制条例により、公共の場所では夜 10 時以降の花火を禁止しています。このうち、特に夜間花火の周辺環境への影響が著しいと認められる地域は夜間花火禁止区域に指定しており、看板、ホームページ等により周知を行いました。

④ 悪臭発生源への監視、指導 [環境政策課]

市内には、悪臭防止法に基づき、工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭を規制する区域が定められています。規制区域内において悪臭物質の排出が規制基準を超えている場合は、事業者に対し改善勧告や改善命令を行

います。平成 24 年度において改善勧告等の事例はありませんでした。また、規制区域以外も含めた悪臭に関する苦情対応件数は 10 件でした。

⑤ アスベストに関する情報提供及び適正処理の推進 [環境政策課、建築住宅課]

島根県では、アスベストの大気中への飛散を防止するため、建築物の解体等工事の監視・指導及び大気中のアスベスト濃度測定を行っています。市では、ホームページを通じてアスベストに関する情報の提供を行っています。

また、市では、建設リサイクル法による建築物の解体工事の届出書を受理しています。アスベスト等の有害物質の除去を伴う旨の記載があった場合は、適切に処理するよう指導しています。

⑥ 犬のしつけ方教室 [環境政策課]

9 月 16 日、島根県と島根県動物保護管理協会、出雲市の共催で、人とペットをめぐる良好な地域環境づくりを目的に、犬の正しい飼い方・しつけ方の講習会を開催しました。17 組の参加があり、犬の病気や手入れ方法、基本的な訓練、しつけ方の講義及び実習を行いました。

⑦ 空地などの管理指導 [環境政策課]

市民は、出雲市環境保全条例に基づき、住宅周辺の空地について、常に除草・清掃を行い、空地の清潔な維持管理に努めなければなりません。平成 24 年度は 11 件の苦情があり、空地所有者に対し適正な管理をするよう指導・助言しました。

2 人と自然がふれあい ともに生きるまち

2-1 野生動植物との共生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	ゲンジボタルの生息が確認された地区の割合	49% (21/43地区)	49% (21/43地区)	51% (22/43地区)	△



国際保護鳥トキ(出雲市トキ分散飼育センター)

(2) 主な取組

① トキによるまちづくり事業 [農業振興課]

1月13日、出雲市西新町の朱鷺会館で、NPO法人 生物多様性農業支援センター理事長を講師に招き、「トキと人とがともに生きる地域社会」をテーマに講演会を開催しました。

② 自然環境調査研究事業 [環境政策課]

市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生動植物を対象とした自然環境調査を実施しました。平成24年度はタガメなどの希少水生生物、ミシシippアカミミガメなどの外来水生生物など計117種を記録しました。

③ 有害鳥獣被害対策事業 [森林政策課]

出雲北山山地では、県が定めた特定鳥獣(ニホンジカ)保護管理計画に基づき、シカの保護目標頭数(適正な生息頭数)180頭に向け、個体数調整捕獲を行うとともに、湖北山地のシカについては、農林作物被害を防止するための有害鳥獣捕獲を行いました。

また、生態系や農林水産業へ影響を及ぼすものとして特定外来生物に指定されているヌートリアについても有害鳥獣捕獲に努めました。

- 捕獲頭数 出雲北山山地シカ/471頭、湖北山地シカ/1,294頭、ヌートリア/625頭

2-2 豊かな自然とのふれあい

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	市主催の自然体験事業の参加者数	10,462人	10,882人	10,500人	○
2	自然体験市有施設の利用者数	118,655人	112,406人	124,700人	×
3	グリーンツーリズムの受入団体数	6団体	6団体	7団体	△



ヤマメのつかみどり(風の子楽習館)

(2) 主な取組

① 自然歩道及び自然公園管理 [観光交流推進課]

地域住民の協力のもと、自然公園内のパトロールや草刈り、ごみ拾いなどを行い、景観の保護及び管理を行いました。

② 開発事業などにおける事業者への助言 [環境政策課]

都市計画区域内の 3,000m² 以上または区域外の 10,000m² 以上の開発行為について、開発行為を行おうとする事業者に対し、環境的見地から意見書を提出しました。

- 件数：13 件

③ 観光施設管理運営事業 [観光交流推進課]

既存の自然体験施設（目田森林公園、わかあゆの里、うさぎ森林公園、見晴らしの丘公園、伊秩やすらぎの森及び水辺、八雲風穴）の管理を通して自然にふれあうことのできる空間の提供を行うとともに、これら施設を広く周知することで更なる自然体験の推進に努めました。

④ 風の子楽習館 [市民活動支援課]

- 自然観察会、自然体験イベント等 20 回
- 体験学習（木の実を使った小物作り等） 170 回
- 受講者数計 8,056 人

- ⑤ 湊原体験学習センター [市民活動支援課]
 - 体験学習等 69回
 - 受講者数計 1,808人
- ⑥ 子ども科学学園－宍道湖西岸・斐伊川河口バードウォッチング [出雲科学館]

宍道湖西岸・斐伊川河口でバードウォッチングを実施し、生物のつながりと環境について学習しました。
- ⑦ グリーンツーリズム推進事業 [観光交流推進課]

グリーンツーリズム実践団体との交流を図り、現状の把握及び課題を調査し、今後の活動の基礎資料としました。

2-3 森林と農地の保全と再生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	森林整備面積(累計)	40ha	60ha	150ha	△
2	間伐等実施面積(累計)	420ha	480ha	700ha	△
3	市産材取扱量	2,700m ³	3,000m ³	3,600m ³	△
4	新規林業就業者数(累計)	1人	5人	10人	△
5	アグリビジネススクール卒業生数(累計)	251人	285人	491人	△
6	学校給食における地場産品の利用割合	35%	35.4%	40%	△

(2) 主な取組

重点プロジェクト1) 森林を守り育てる取組

- ① 森林整備地域活動支援交付金事業 [森林政策課]

林業事業体等が行う、森林経営計画作成のための森林情報の収集や森林調査等の活動経費に対して支援を行いました。

 - 対象者 1事業体
 - 対象面積 83.76ha

また、林業事業体等が実施する、森林整備に必要な作業路網の改良に要する経費に対して支援を行いました。

 - 対象者 3事業体
 - 対象面積 356.39ha
- ② 造林事業 [森林政策課]

市有林及び市行造林において、植栽木の健全な生長を促進するために、間伐、除伐及び枝打ちを実施しました。また、森林資源の利活用を目的として、間伐材の搬出を行いました。

- 間伐（搬出） 2 団地、15.37ha
- 間伐（搬出以外） 17 団地、39.24ha
- 除伐 1 団地、2.50ha
- 枝打ち 15 団地、38.15ha



造林事業で間伐された木々

③ 21 世紀出雲林業フロンティア・ファイティング・ファンド事業 [森林政策課]

ア 市産材利用の推進

市産材利用の推進を図るため、下記の助成を行いました。

(ア) 市産材の出荷促進のため、出雲木材市場への原木出荷に係る手数料の一部を助成しました。

- 補助金額 出売手数料助成として 税込売上の 2%
整理料助成として 630 円/m³
- 市産材出荷量 228.23m³

(イ) 市産材利用促進のため、構造材に市産材を使用した新築住宅に対し、県産材使用補助金（島根県木材協会）に上乗せして助成しました。

- 補助金額 市産材使用材積 2 万円/m³（上限 20 万円）
- 助成件数 12 件
- 市産材使用量 138.30m³

イ 森林整備、森林保全活動の促進

森林整備、森林保全活動に対する財政的・技術的支援を図るため、国や県の補助事業対象外の間伐・枝打ち、作業道整備等の造林事業に対して事業費の助成を行いました。

(ア) 保育（下刈り、枝打ち、除伐、間伐）に対する助成

- 補助率 2/3 以内
- 助成件数 14 件

- 実施面積 6.04ha
- (イ) 作業道開設に対する助成
- 補助金額 延長 (m) × 幅員 (m) × 500 円以内
- 助成件数 6 件
- 開設延長 1,925m

④ 出雲市みどりの担い手育成事業 [森林政策課]

林業後継者対策として、出雲地区森林組合が採用した作業員の健康保険、厚生年金及び中小企業退職金共済の事業主負担分を補助しました。

- 補助対象者数 5 名

【その他の取組】

⑤ 緑の募金活動 [森林政策課]

国民全体で森林を守り育てる運動の一環として、町内会を通じて緑の募金活動（家庭募金）を行いました。緑の募金は、主に地域の緑化活動支援のために活用されています。

- 募金活動主催 公益社団法人島根県緑化推進委員会（出雲市は正会員）
- 募金時期 5 月～7 月
- 募金額 7,493,435 円（うち家庭募金 7,109,910 円）

⑥ 緑の募金公募事業 [森林政策課]

緑の募金活動で集まった浄財を資金とした「緑の募金公募事業」（公益社団法人島根県緑化推進委員会）を活用し、地域住民による森林整備活動等の支援を行いました。

- 助成金額 上限 50 万円
- 採択事業数 市内団体 14 件
- 事業内容 松枯れ跡地への植樹、雑木林の整備、広場や公園への植樹、講演会、間伐体験 等



市民による森林整備活動の様子

- ⑦ 松くい虫被害対策事業 [森林政策課]
防除計画区域内の健全なマツに対して防除薬剤の樹幹注入を行うとともに、被害木について伐倒駆除等を行いました。
- 樹幹注入 12,290 本
 - 特別伐倒駆除 6,288 本
 - 伐倒駆除（くん蒸） 5,621 本
- ⑧ ナラ枯れ被害対策事業 [森林政策課]
市内のナラ枯れ被害木に対し、伐倒駆除等を行いました。
- 伐倒駆除（くん蒸） 138 本
 - 特別伐倒駆除 15 本
- ⑨ 人・農地プラン推進事業 [農業振興課]
「人・農地プラン」を策定し、認定農業者や集落営農組織を「地域の中心となる担い手」として位置付け、農地集積計画を立てて農地集積を図りました。
- 農地集積面積 80ha
- ⑩ 環境保全型農業直接支払交付金 [農業振興課]
化学肥料、農薬を 5 割以上低減する取組とセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農家に対し、当該取組の実施に伴う追加的コストを支援しました。
- 取組面積 187ha
- ⑪ 集落営農 [農業振興課]
集落営農組織の新規設立や法人化を支援し、これら組織による農地の保全、用排水路等の整備を通じて、水環境の保全を図りました。
- 集落営農組織新規設立 3 団体
 - 集落営農組織の法人化 5 団体
- ⑫ 耕作放棄地再生事業 [農業振興課]
離農または規模を縮小する農家の農地を「地域の中心となる担い手」に集積することにより、遊休農地化の防止、農地保全を図りました。
耕作放棄地の発生防止、再生に向けた取組を進めた結果、16 か所、計 4.4ha の耕作放棄地を再生しました。
- ⑬ アグリビジネススクール事業 [農業振興課]
ぶどうチャレンジ講座、柿チャレンジ講座、いちじくチャレンジ講座、野菜チャレンジ講座の 4 講座を開講し、41 人受講、34 人が講座を修了し、うち 7 人が新規就農しました。
- 講座開設期間：平成 23 年 12 月～平成 24 年 11 月
- ⑭ 地産地消促進による学校給食への地場産品の提供 [学校給食課]
市内の学校給食センターでは、毎月 1 回「おいしい出雲の一日」を設定し、ふんだんに地元産の食材を使用した給食を提供しました。また、6 月の食育月間にあ

わせて「いずも給食 Week」を設けたほか、11月の「しまねふるさと給食月間」の期間中、特に地産地消の推進に取り組みました。

学校給食における地場産品の使用割合は35.4%です。(平成24年度島根県食材仕入れ等状況調査より)

⑮ 有害鳥獣被害対策事業 [森林政策課]

農作物に被害を与えるシカ、イノシシ、ヌートリア等の有害鳥獣の捕獲による頭数管理やワイヤーメッシュ、電気牧柵等の防護施設の設置に対する支援を行いました。

● 捕獲頭数 シカ/1,765頭、イノシシ/1,466頭、タヌキ/785頭、
カラス/512羽など

● 防護施設設置助成 67件

⑯ 中山間地域等直接支払事業 [農業振興課]

高齢化により耕作放棄地の増加が懸念されている中山間地域等において、農業生産の維持を図りながら多面的機能を確保するため、農業者等による協定を締結し、農業生産活動を継続して行う集落等を支援しました。

● 平成24年度末現在の集落協定数 77集落

⑰ 県営中山間地域総合整備事業 [農林基盤課]

出雲南地区(朝山・乙立・稗原)、佐田地区において、県営事業を活用し、農業用排水路、暗渠排水、ほ場等の整備を推進しました。

⑱ みんなでつくる出雲の森事業 [森林政策課]

間伐等による森林の適正な管理と、間伐材のチップ燃料としての利用促進を目的として、市民参加により林地残材を搬出するための「みんなでつくる出雲の森事業」の立ち上げに向け、先進事例の視察、研究を行い、チップ業者等関係者との協議、検討を行いました。

(3) 課題と今後の方向性

重点プロジェクト「1) 森林を守り育てる取組」において数値目標として掲げた「①森林整備面積」、「②間伐等実施面積」、「③市産材取扱量」、「④新規林業就業者数」の平成24年度実績は、いずれも平成23年度(基準年度)より改善したものの、中間目標を達成することができなかつたため、「△」となりました。木材価格の低迷等林業収入の減少に伴う森林所有者の経営意欲の低下等により、森林の管理放棄地が拡大し、森林の持つ多面的機能の低下が危惧されています。

森林の経営・管理を集約して行う木材生産団地化の促進、集約化施策に必要な路網の整備、高性能機械の導入などの条件整備を図るとともに、森林資源について、建築用からバイオマス利用まで、各分野での市産材利用の推進に努めます。

3 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

3-1 景観保全と緑地の確保

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	一人当たりの公園面積	16.7㎡	16.8㎡	16.8㎡	○



修景助成によって整備された建築物

(2) 主な取組

① 街なみ環境整備事業 [まちづくり推進課]

歴史的趣のある質の高い街なみ景観を創出するため、出雲大社周辺地区において、道路景観整備を実施しました。

- 市道鷲浦宮内線道路美装化・無電柱化 170m

② 大規模な建築物などに対する景観指導 [建築住宅課]

適切な景観づくりを推進するため、出雲市内で一定規模以上の建築工事等を実施する場合や景観形成地域内における建築工事等の行為について、事前届出により、外観や緑化等に関する指導、助言を行いました。

- 大規模行為届出 161件
- 景観形成地域の届出 19件
- 国の機関等の通知 22件

③ 建築物に対する修景助成 [建築住宅課、まちづくり推進課]

良好な都市景観及び調和の取れた街なみの形成を促進するため、指定した地域において修景助成を行いました。

- 大社神門通り地区6件、出雲大社周辺地区3件、今市（八雲）地区1件

④ 屋外広告物の規制・指導 [建築住宅課]

鳥根県屋外広告物条例に基づき、許可委任事務を行いました。

- 新規249件、更新分403件

⑤ 街路事業 [まちづくり推進課]

緑豊かで潤いのある道路、快適で良好な街なみ景観を形成するため、街路樹を新たに 50 本植樹しました。

⑥ 築地松景観保全の支援 [建築住宅課]

築地松景観保全のため、築地松景観保全対策協議会（島根県、出雲市）において、築地松の維持管理に要する経費を助成しました。

- 剪定 163 件 伐倒・補植 483 件 地上散布 78 件 樹幹注入 134 件



築地松陰手刈り(のうてごり)技術研修会

⑦ 景観マップの作成や写真展の開催による啓発活動の推進 [建築住宅課]

築地松コミュニケーション発行（1回/年）

- ※ 平成 25 年度に築地松みどころマップを作成予定

⑧ 学校や幼稚園等での花壇づくり [学校教育課]

各学校で野菜や花の栽培を積極的に行い、プランターで花を育てて地域の施設にプレゼントしたり、育てた野菜を調理して地域の方々と一緒に食事をしたりする学校があるほか、多くの学校でグリーンカーテンを栽培しました。

⑨ 街路樹及び緑地帯等管理 [都市計画課]

街路樹等について、剪定、施肥等の維持管理を行いました。

⑩ 老朽化した公園施設のリフレッシュ整備事業の推進 [都市計画課]

老朽化した公園施設及び遊具の改修を行いました。

- 愛宕山公園シカ広場法面工事
- 斐川公園野球場施設バックスクリーン・得点板改修工事
- 新崎南公園、新崎若葉公園、天神南公園、朝倉南公園遊具改修工事

⑪ 街なみ環境整備事業 [まちづくり推進課]

市民等の憩いの場、あるいは緑豊かな潤いのある空間を提供するため、神門通り地区において公園整備を実施しました。

- 神門通りポケットパーク整備 253.88 m²

3-2 環境美化の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	市主催の環境啓発イベント(ポイ捨て一掃大作戦、不法投棄パトロールなど)の参加者数	9,618人	11,331人	13,000人	△
2	一斉清掃参加者数	10,013人	10,553人	11,000人	△
3	美化サポートクラブ登録団体数	29団体 (934人)	34団体 (1,016人)	40団体 (1,200人)	△



ポイ捨て一掃大作戦

(2) 主な取組

① ポイ捨て・不法投棄対策の推進 [環境政策課]

ごみのポイ捨て、犬のふん放置、不法投棄を防止する啓発看板を作成し、設置を希望する市民の方へ無料で配付しました。

出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、11月14日、「不法投棄パトロール」を実施し、不法投棄の実態を把握するとともに、警察等関係機関を交え、対策について意見交換しました。

② ポイ捨て禁止キャンペーン [環境政策課]

出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、ポイ捨て禁止とマナーの向上を呼びかけるため、「ポイ捨て禁止キャンペーン」を実施しました。協議会委員のほか、出雲市環境保全連合会会員も参加して行いました。

- 8月25日/道の駅キララ多伎 24名参加
- 10月6日/夢フェスタ in いずも会場 31名参加
- 3月23日/道の駅湯の川 32名参加

③ 「市民一斉クリーンデー」や「ポイ捨て一掃大作戦」などへの参加拡大〔環境政策課〕

出雲市では、6月第1日曜日を「市民一斉クリーンデー」として設定するとともに、神在月の10月を「出雲市ポイ捨て禁止月間」としています。「市民一斉クリーンデー（6月）」や「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦（10月）」への参加を、市広報や防災無線、新聞広告等を通じて市民に広く呼びかけました。

出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、各種団体と協力して、10月の「ポイ捨て禁止月間」に家庭で不要になった使用済みのビニール袋1袋分のごみを拾う運動を展開しました。平成24年度は10,512人の参加がありました。

④ 路上喫煙対策〔環境政策課〕

ポイ捨て禁止キャンペーンやイベントにおいて、携帯用灰皿の無料配布を行い、たばこの吸い殻をポイ捨てしないよう呼びかけました。

⑤ 美化サポートクラブ〔環境政策課〕

美化活動の実施、啓発活動に関してボランティアとして協力する市民団体や事業所を募集し、「美化サポートクラブ」として認定しました。認定団体に対しては、傷害保険への加入やゴミ袋の配布等の支援を行いました。

● 認定数 34団体（1,016名）

⑥ 「環境保全ニュースレター」の発行〔環境政策課〕

出雲市環境保全連合会の活動を広く市民に紹介するため、市のホームページに同連合会のサイト「環境保全ニュースレター」を開設し、連合会活動の情報発信を行いました。

● 掲載活動数 28件

⑦ ポイ禁だよりの掲載〔環境政策課〕

広報いずもに「ポイ禁だより」を掲載し、ポイ捨て禁止キャンペーンや不法投棄パトロールの状況を紹介するとともに、ポイ捨て、不法投棄の防止を呼びかけました。

4 地球を考え 地域から実践するまち

4-1 地球温暖化防止の取組

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量	8,616t-CO ₂ (H22年度)	8,858t-CO ₂ (H22年度比2.8%増)	7,997t-CO ₂ (H22年度比△7.2%)	×
2	市有施設(事務部門)の電気使用量	10,935,200kWh (H22年度)	10,839,907kWh (H22年度比△0.9%)	10,115,983kWh (H22年度比△7.5%)	△
3	市公用車へのクリーンエネルギー自動車導入率【再掲】	1.5% (8台)	1.7% (8台)	10.6% (58台)	△
4	LED防犯灯の設置基数(総基数に対する割合)	401基 (5%)	566基 (7%)	1,888基 (21%)	△
5	エコライフチャレンジしまね(環境家計簿)登録世帯数	884世帯	894世帯	1,000世帯	△
6	学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合	100%	100%	100%	○
7	ISO14001、エコアクション21認証取得事業所数	34事業所	33事業所	40事業所	×
8	再生可能エネルギー導入市有施設数	9施設	10施設	14施設	△
9	再生可能エネルギー普及啓発事業への参加者数	0人	51人	100人	△

(2) 主な取組

重点プロジェクト2) 温室効果ガス抑制への取組

① 電気自動車急速充電スタンドの整備 [環境政策課]

環境に優しい電気自動車の普及を促進するため、道の駅「大社ご縁広場」に急速充電スタンドを1基整備し、4月27日から運用を開始しました。

- 利用時間 365日、24時間利用可能
- 1日平均利用件数 2.35件



大社ご縁広場急速充電スタンド

② 「EVドライブマップ」の作成・配布 [環境政策課]

中海・宍道湖・大山圏域の急速充電スタンドの設置箇所を記したドライブマップを作成し、電気自動車（EV）の普及推進を図りました。

- 発行 中海・宍道湖・大山圏域市長会

③ 市の事務及び事業から発生する CO₂ 排出量、電気使用量の削減 [環境政策課、管財契約課]

1月17日、「出雲市役所本庁舎省エネルギー行動計画」を策定し、これに基づき、本庁舎の各種空調設備の運転開始時間をずらし、使用最大電力のピーク時間帯を分散するとともに、空調の温度設定範囲を制限することにより、電力消費量を抑えました。

そのほか、執務室や会議室等の蛍光灯を間引くことにより、電力消費量を抑えました。

④ 防犯灯の LED 化 [交通政策課]

市設置防犯灯について、新設防犯灯 53 灯すべてを LED 防犯灯で設置しました。

町内会等設置防犯灯については、LED 防犯灯の新設分 102 灯について設置補助を行いました。

また、従来の蛍光灯タイプ防犯灯から LED 防犯灯への更新分 89 灯についても設置補助を行いました。

【その他の取組】

⑤ エコドライブ講習会 [環境政策課]

エコドライブの普及と運輸部門の CO₂ 排出量の削減を目的として、10月26日、出雲高等自動車教習所において「エコドライブ講習会」を開催しました。

- 受講者数 8名

⑥ エコドライブ街頭啓発 [環境政策課]

11月のエコドライブ推進月間のキックオフイベントとして、11月1日、ラピタ本店にてエコドライブの方法を分かりやすく記したパンフレットや環境に関する啓発物品を配布し、約300名の来店者にエコドライブを呼び掛けました。

⑦ グリーンカーテンの推進 [環境政策課]

身近にできる地球温暖化対策の一つとして、家庭や事業所等でのグリーンカーテンの設置を促すため、グリーンカーテン用のゴーヤ苗を2,000ポット配付しました。

- 配付先 個人・事業所等183件

⑧ 針葉樹、広葉樹の植樹事業の推進 [森林政策課]

「21世紀出雲林業フロンティア・ファイティング・ファンド事業」により、国や県の補助事業対象外の新規植樹に対して事業費の助成を行いました。

- 補助率 2/3 以内
- 助成件数 5 件
- 実施面積 1.90ha

⑨ 学校版エコライフチャレンジしまねの参加促進 [学校教育課]

市内の市立小・中学校は、平成 22 年度からすべての学校で「学校版エコライフチャレンジしまね」に参加しており、これにより交付される島根県環境教育推進事業補助金を活用して環境学習のための教材を購入したり、野菜や花の苗、種を植栽するなど、児童生徒の環境意識の高揚を図りました。

⑩ お金が貯まる?! 省エネ講座 [環境政策課、市民活動支援課]

一般家庭での省エネ推進をめざし、11 月 20 日、出雲科学館にてしまね環境アドバイザー 石原孝子氏を講師に迎え、「お金が貯まる?! 省エネ講座」を開催しました。

- 受講者数 10 名

⑪ 出前☆環境講座 [環境政策課、市民活動支援課]

11 月 3 日～4 日、出雲ドームにて開催された「出雲産業フェア」に出展し、廃油せっけん作りや米袋を再利用したマイバック作りなど、省エネ・3R をテーマとした体験講座を開催し、地球温暖化防止の普及啓発を行いました。

- 参加者数 約 450 名

重点プロジェクト3) 再生可能エネルギーの普及と利用促進

① 市有施設における再生可能エネルギー設備の導入 [産業振興課]

ア 向陽中学校への太陽光発電システム導入 [教育施設課]

向陽中学校の整備において太陽光発電システムを設置し、運転を開始しました。

- 発電出力 40kW
- 運転開始 12 月 20 日
- 発電した電気の用途 自家消費 (余剰電力は売電)

イ ゆかり館への木質チップボイラー導入 [観光交流推進課]

ゆかり館へ、温泉、給湯に係る熱需要の大半を賄う木質チップボイラー1 基を整備しました。燃料となるチップも市内業者から受け入れしており、循環型社会への貢献を図っています。

- 出力 160kW (木質チップ含水率 40%時)
- 竣工 3 月 19 日 (本格運用開始は平成 25 年 4 月 11 日から)
- 木質チップ供給元 出雲地区森林組合、須佐チップ工業

② 再生可能エネルギー普及啓発事業 [産業振興課、市民活動支援課]

新エネルギーに対する理解促進を図るため、11 月 10 日に新エネルギー関連施設の見学会を、12 月 9 日に小学生を対象としたエネルギー学習講座を開催しま

した。

ア 新エネルギー関連施設見学会（大人の社会科見学～今どきのエネルギー事情）

- 見 学 先 新出雲風力発電所
出雲バイオマスエネルギープラント（ブルータワー）

- 参加者数 12名

イ エネルギー学習講座（LED で光るホワイトツリーを作ろう☆）

- 講座内容 実験と工作（太陽光電池、LEDを使用したクリスマスツリーの作成）を通じて、発電のしくみについて学ぶ。

- 場 所 出雲科学館

- 参加者数 39名（小学生20名、保護者19名）



ゆかり館の木質チップボイラー

③ 広報いずもへの記事連載（『再生可能エネルギー』について考えてみよう！）

[産業振興課]

再生可能エネルギーに係る市の取組等を次のとおり掲載しました。

- 4/20号 多伎の風車はどれくらい発電しているの？
- 6/20号 出雲市内で中小水力発電ができるところはないの？
- 8/20号 神話の國出雲さんさん倶楽部って何ですか？
- 11/20号 「木質チップボイラー」って何ですか？
- 1/18号 新エネルギー関連施設の見学会を開催しました！

【その他の取組】

④ 神話の國出雲バイオマス活用推進プランの策定 [産業振興課]

平成22年3月に策定した「出雲市バイオマスタウン構想」の取組状況や効果の検証を行ったうえで、バイオマス資源の利活用に向けた実効性のある「神話の國出雲バイオマス活用推進プラン」の策定に向けた検討を実施しました（平成25年6月策定）。

【今後の具体的な取組】

ア みんなでつくる出雲の森事業〔森林政策課〕（再掲）

森林の適正管理とバイオマス資源の利用を図るため、市民参加による林地残材搬出の仕組を導入します。

イ 公共温浴施設への木質バイオマスボイラーの導入〔産業振興課〕

平成 25 年 3 月に導入したゆかり館の実績等を踏まえ、他施設への導入検討を実施します。

⑤ 中小水力発電事業化可能性調査〔産業振興課〕

市内に存在する水資源の有効活用を図るという観点から、農業用水路等における小水力発電の導入に向けた事業化の可能性を検証するため、「中小水力発電事業化可能性調査」を実施しました。

● 調査エリア 市内全域

● 調査対象 市が管理する施設（農業用施設、河川施設等）

● 調査の流れ ① 情報の収集・整理（236 地点）

② 現地調査地点の絞り込み（25 地点）

③ 現地調査地点の選定（10 地点）

④ 現地調査を踏まえた事業採算性等の検証

● 調査結果 市内には流量が多く有効落差を長く確保できる地点がないため、小水力発電の出力が小規模にならざるをえず、また、現在の小水力発電の設置に係る費用が割高であるため、事業化が可能であると考えられる地点の確認はできませんでした。ただし、本調査の実施により、市内における小水力発電の実施可能地点を把握することができたので、中小水力発電を巡る今後の動向を調査しながら、引き続き導入に向けた検討を行うこととしています。

－小水力発電の普及拡大に伴う設置費用の低減

－技術開発による効率の向上

－固定価格買取制度の調達価格引き上げや設置費用等に対する低利融資などの政策支援の実施

(3) 課題と今後の方向性

重点プロジェクト「2）温室効果ガス抑制への取組」において数値目標として掲げた「①市の事務及び事業から発生する CO₂ 排出量」の平成 24 年度実績は、平成 22 年度（基準年度）より状況が悪化したため「×」、また、「②市有施設（事務部門）の電気使用量」、「③市公用車へのクリーンエネルギー自動車導入率」、「④LED 防犯灯の設置基数」の平成 24 年度実績は、平成 23 年度（「②市有施設（事務部門）の電気使用量」は平成 22 年度）より改善したものの、中間目標を達成することができなかったため、「△」となりました。地球温暖化防止に資する具体的な省エネ行動の拡

大と定着が課題となっています。

今後、率先垂範すべき市役所自らの取組において、更なる徹底を図ることはもとより、近年、産業部門、家庭部門、民生部門を中心に、出雲市全体で CO₂ 排出量が増加していることから、市民、事業者への啓発活動の強化に努めます。また、現在、政府において検討が進められている地球温暖化対策の見直しの動向を踏まえ、「出雲市地域省エネルギービジョン」や出雲市役所独自の率先行動計画である「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の見直しについて検討を行います。

一方、重点プロジェクト「3）再生可能エネルギーの普及と利用促進」において数値目標として掲げた「⑧再生可能エネルギー導入市有施設数」、「⑨再生可能エネルギー普及啓発事業への参加者数」の平成 24 年度実績は、いずれも平成 23 年度（基準年度）より改善したものの、中間目標を達成することができなかったため、「△」となりました。今後は、市役所自らの取組に加え、地域における効率的なエネルギー利用の推進が課題となっています。

太陽光、木質バイオマスといった出雲市の豊かな自然を生かした再生可能エネルギーの導入、利用を一層推進します。

4-2 地球規模での環境問題への取組

(1) 主な取組

① フロン対策 [環境政策課]

出雲市のホームページに家電リサイクル法などの詳細を掲載し、周知しました。

② 海岸漂着ごみ回収事業 [環境政策課]

市民ボランティアによる海岸清掃活動を支援するため、集められたごみの回収を市において実施しました。

③ 海岸漂着ごみの処理等についての要望活動 [環境政策課]

市民により回収された海岸漂着ごみに係る処分費用は、市にとって大きな負担となっています。国、県からの財政支援の継続と拡充について、本市独自に、また、島根県市長会を通じて、県知事に対し重点要望を行いました。



海岸漂着ごみの清掃活動

5 「もったいない」の心で築く 循環型のまち

5-1 廃棄物対策と資源循環の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	ごみ排出量	62,632t	61,764t (H23年度比△1.4%)	60,117t (H23年度比△4%)	△
2	ごみ再資源化量 (再資源化率)	12,239t (19.5%)	11,468t (18.6%)	13,543t (22.5%)	×
3	ごみ最終処分量 (最終処分率)	9,104t (14.5%)	8,141t (13.2%)	8,539t (14.2%)	○
4	廃食用油回収量【再掲】	47,466ℓ	35,077ℓ	47,500ℓ	×
5	リサイクル団体回収補助登録団体数	90団体	99団体	100団体	△

(2) 主な取組

重点プロジェクト4) ごみ減量と再資源化の推進	
①	<p>ガーデンシュレッダー貸出事業 [環境政策課]</p> <p>市民に、枝木粉碎機を貸し出し、枝木等の排出抑制を図りました。5機所有し、貸出回数は96回あり、利用者から申告された破砕量は3,453kgでした。</p>
②	<p>リサイクル団体回収補助事業 [環境政策課]</p> <p>リサイクル団体の資源物回収に対し補助を行いました。団体数は99団体で補助額は4,068千円でした。回収された資源物は古紙1,145t、空き缶112t、リターナブルビン34,587本でした。</p>
③	<p>出雲市ごみ減量化アドバイザー派遣事業 [環境政策課]</p> <p>コンポスターによる生ごみ堆肥化や衣類のリユース方法等について周知するため、自治会等が行う研修会へ出雲市ごみ減量化アドバイザーを派遣しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師登録 13名 ● 派遣回数 115回
④	<p>ごみ減量化啓発ビデオ制作事業 [環境政策課]</p> <p>ごみ減量化についての啓発ビデオを制作し、出雲ケーブルビジョン及び平田CATVで10月～11月に30回放映しました。</p>
⑤	<p>出雲ごみダイエット通信発行事業 [環境政策課]</p> <p>平成24年8月に第1号を創刊し、以降第4号まで発行しました。</p>
⑥	<p>レジ袋削減・ごみ減量化のCM制作・放送 [環境政策課]</p> <p>レジ袋無料配布中止の取組をPRするとともに、取組を実践している事業者を紹介し、レジ袋有料化が環境保全活動に寄与していることを広報しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 放送局 出雲ケーブルビジョン ● 放送回数 3月中の2週間で計119回放映

⑦ レジ袋無料配布中止事業 [環境政策課]

平成 24 年度は前年度に比べて 3 事業者 4 店舗の増加となりました。

- 協力事業者数 13 事業者
- 協力店舗数 29 店舗



NO！レジ袋拡大キャンペーン

【その他の取組】

⑧ ごみ減量化研修事業 [環境政策課]

コミュニティセンターや出雲市環境保全連合会支部が主催するごみ減量に係る研修会に市役所職員が講師として出席するとともに、廃棄物処理施設等の見学会を開催しました。

- 開催回数 12 回

⑨ スーパー等の店頭回収の推進 [環境政策課]

出雲市のホームページにて、スーパー等が行う店頭回収の取組を紹介し、市民への周知を図りました。

⑩ リサイクルステーション設置事業 [環境政策課]

- 開設状況 出雲地域 24 か所 (コミュニティセンター等)、平田地域 (ごみ集積場と共用)、佐田地域 128 か所 (集会所等)、多伎地域 30 か所 (会館等)、湖陵地域 23 か所 (会館等)、大社地域 64 か所 (コミュニティセンター等)、斐川地域 8 か所 (コミュニティセンター等)

⑪ リサイクルショップの紹介、周知 [環境政策課]

市内にあるリサイクルショップの所在地・連絡先等を出雲市のホームページ等で紹介し、リユース、リサイクルを呼びかけました。

⑫ 事業所訪問、ごみ排出実態調査 [環境政策課]

市内の事業所を訪問し、発生するごみの処理方法等を調査するとともに、ごみの減量化に向けた提案書等を作成し、指導・助言を行いました。

⑬ いずも古着市開催事業 [環境政策課]

10月27日～28日、湖陵コミュニティセンターにて実行委員会主催による「いずも古着市」を開催しました。当日の来場者は700人、持ち込まれた古着は7,000枚、販売数は2,019枚でした。



いずも古着市

⑭ ごみの分別徹底 [環境政策課]

「みんなでごみの分別を」と題して、「広報いずも」10月号に記事を載せ、ごみの分別徹底について広報しました。

⑮ 廃棄物の不適正処理対策 [環境政策課]

不法投棄防止のため、看板や監視カメラを設置するとともに、出雲市ポイ捨て禁止推進協議会と協力して不法投棄パトロールを行いました。野外でのごみの焼却については、出雲保健所と連携して適正処理に向けた指導を実施しました。

⑯ 次期可燃ごみ処理施設の整備に向けた予備調査・検討 [環境施設課]

先進地調査を行い、施設整備スケジュール及び用地選定・施設整備手法等の情報収集を行いました。

(3) 課題と今後の方向性

重点プロジェクト「4) ごみ減量と再資源化の推進」において数値目標として掲げた「①ごみ排出量」の平成24年度実績は、平成23年度（基準年度）より改善したものの、中間目標を達成することができなかったため「△」、また、「②ごみ再資源化量（再資源化率）」の平成24年度実績は、平成23年度（基準年度）より状況が悪化したため「×」となりました。

排出されたごみの中に、空き缶や空きびん、新聞、雑誌、雑紙、ペットボトルなどの資源ごみが混入していることが判明しており、今後、さらに分別を徹底する必要があります。また、可燃ごみの中に水切りが不十分な生ごみや賞味期限切れ等「手つかず食品類」が含まれているため、その減量が喫緊の課題となっています。広報・啓発活動において、対象者の特性に応じた、きめ細かで分かりやすい情報提供に努めていきます。

5-2 環境と経済の好循環の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	「しまねエコショップ」登録店舗数	32店舗	26店舗	36店舗	×
2	「しまねグリーン製品」登録製品数	44製品	46製品	48製品	△

(2) 主な取組

① 環境にやさしい製品の普及と利用促進 [環境政策課]

島根県では、ごみの減量化・資源化及び再生利用に努めている店舗を「しまねエコショップ」として認定しています。また、島根発の優れたリサイクル製品を「しまねグリーン製品」に認定し、資源の循環的な利用の促進とリサイクル産業の育成を図っています。市では、これらの店舗と製品の普及・利用を図るため、ホームページ等を活用してPRを行いました。

② グリーン購入の推進 [環境政策課]

出雲市では、市職員の地球温暖化対策率先行動計画である「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の中で、グリーン購入の促進を掲げ、すべての機関で取り組んでいます。

6 とともに学び行動する 環境意識が高いまち

6-1 環境学習・環境保全活動の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	斐川環境学習センターの利用者数	3,841人	4,934人	4,000人	○
2	ごみ減量化アドバイザーの派遣回数	83回	115回	100回	○
3	こどもエコクラブ登録団体数	19団体	14団体	25団体	×
4	市主催の環境啓発イベント(ポイ捨て一掃大作戦、不法投棄パトロールなど)の参加者数【再掲】	9,618人	11,331人	13,000人	△
5	ISO14001、エコアクション21認証取得事業所数【再掲】	34事業所	33事業所	40事業所	×
6	エコライフチャレンジしまね(環境家計簿)登録世帯数【再掲】	884世帯	894世帯	1,000世帯	△
7	学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合【再掲】	100%	100%	100%	○



米袋エコバッグ作り

(2) 主な取組

① 斐川環境学習センター [環境政策課]

斐川環境学習センター(愛称 アース館)は、地域環境や地球環境を守り、育み、次世代に引き継いでいくための教育・学習の拠点施設として、平成15年3月に開館しました。環境学習センターでは、各種環境教室を企画・開催するほか、市民の要望に応じて環境学習の講師を紹介しています。

- 来館者数 4,934人
- 講座内容 廃油石鹸作り、米袋エコバッグ作り、筍掘り体験、虫・野鳥の観察会、ロケットコンロ作り、ソーラー電池作りなど

- 開催回数 150回
 - 受講者数 延べ1,365人
- ② 段ボールコンポストづくりの研修会〔環境政策課〕
7月28日に出雲環境センターにおいて市内の小学4年生親子20名を対象に行いました。
- ③ 出雲環境ミュージアム〔出雲科学館〕
ふるさと出雲の自然環境について、宍道湖や立久恵峡の自然を中心に紹介するとともに、外来種の問題なども紹介しました。
- ④ 学校教育での環境教育の推進〔学校教育課〕
エネルギーセンターなどの廃棄物処理施設を見学してごみ問題について考えたり、動植物の観察や飼育栽培、身近な河川の水質調査を通じて環境の大切さを学んだりしました。また、各学校では、地域の清掃活動や海岸清掃などのボランティアに参加しました。
- ⑤ こどもエコクラブ〔環境政策課〕
財団法人日本環境協会がサポートする「こどもエコクラブ」に登録した団体の環境学習に対し、年間3万円を上限に補助金を交付しています。平成24年度は、登録14団体のうち申請のあった7団体に補助金を交付しました。広報いずもやホームページを通じて、こどもエコクラブへの加入をPRしました。
- ⑥ 出雲市環境保全連合会〔環境政策課〕
出雲市環境保全連合会は、平成20年5月に設立され、コミュニティセンター単位に支部が組織されています。支部では、道路、公園等の美化活動のほか、不法投棄等の巡回パトロールや環境フェア、文化祭等での環境啓発活動など、各地区の状況に応じて様々な活動に取り組んでいます。
- ⑦ 市民活動支援事業補助金〔市民活動支援課〕
木綿街道雲州平田船川を愛する会の「木綿街道緑の木広場に蛍舞う」に支援を行いました。木綿街道雲州平田船川を愛する会では、平田船川流域の河川の環境美化活動を行い、地域住民の力で蛍を蘇らせる活動に取り組むとともに、活動を通して、地域の活性化につなげています。

6-2 環境情報の提供と共有

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	中間目標値 (H29年度)	評価
1	環境新聞発刊	年6回	年38回	年30回	○
2	市主催の自然体験事業の参加者数 【再掲】	10,462人	10,882人	10,500人	○



出雲市の環境ポータルサイト「出雲エコナビ」のトップ画面

(2) 主な取組

① 出雲市の環境ポータルサイト「出雲エコナビ」〔環境政策課〕

家庭や事業所で実践できる省エネ・3Rの取組を分かりやすく解説するとともに、出雲市省エネルギービジョン推進協議会をはじめとした環境団体の活動を幅広く紹介することで、地域の省エネ・3Rの取組を一層推進することを目的として、環境情報をまとめたポータルサイトを開設しました。

② エコカレンダー〔環境政策課〕

毎日の生活の中で楽しく省エネ・3R活動に取り組んでいただけるよう「2013年エコカレンダー」を作成しました。エコカレンダーには、3Rの取組やグリーンカーテン苗の育て方、省エネのポイントなど暮らしに役立つ情報を掲載しました。

③ 省エネ協議会だより〔環境政策課〕

季節に合わせた省エネ・3Rの取組や出雲市省エネルギービジョン推進協議会が行う事業に関する情報を掲載しました。

④ 出雲ごみダイエット通信〔環境政策課〕

広報いづもにごみ減量等に関する啓発記事を年4回(8月号、10月号、12月号、2月号)掲載しました。

⑤ 生ごみ減量化イベント〔環境政策課〕

8月4日～5日に出雲科学館で開催された「青少年のための科学の祭典」に出展し、生ごみ減量化イベントを実施しました。

IV 出雲市役所の取組

出雲市役所は、行政機関であると同時に、経済活動の主体としての事業者・消費者でもあります。市役所自らが事業者や家庭に先駆け、率先して温暖化対策を実施することが求められています。

そのため、平成 17 年 3 月に市独自の環境マネジメントシステム「いずもエコシティ・アクションプログラム」を策定し、2 度の改定を経て、平成 24 年度からは、「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」を策定し、さらに効果的な環境負荷低減をめざした取組を進めています。

1 「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の概要

(1) 計画の性格

- ① 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、市の事務・事業に伴い排出される温室効果ガス排出量を抑制するための実行計画です。
- ② エネルギー使用の合理化に関する法律に基づく特定事業者として、「年平均 1%以上」の省エネルギーを達成するための計画です。
- ③ 第 2 次出雲市環境基本計画に掲げる、市の事務・事業から発生する CO₂ 排出量及び市有施設（事務部門）における電力使用量に関する削減目標を達成するための個別計画です。

(2) 基準年度

平成 22 年度（通勤距離 3km 未満の市職員のマイカー通勤自粛についての基準年度は、平成 23 年度）

(3) 計画期間

平成 24 年度～平成 33 年度（通勤距離 3km 未満の市職員のマイカー通勤自粛についての計画期間は、平成 24 年度～平成 28 年度）

(4) 対象範囲

市の全機関

(5) 対象事業

市自らが行う事務・事業

ただし、下表に掲げる事務・事業、外部委託等により実施する事務・事業及び市職員が配置されていない施設（小中学校を除く）における事務・事業は対象外とします。

施設名	対象外
上下水道局庁舎（来原浄水場含む）	動力部門
出雲エネルギーセンター	動力部門
斐川クリーンステーション	動力部門
学校給食センター（出雲、平田、斐川）	動力部門

総合医療センター	病院部門
消防署（出雲、出雲西、平田、大社、斐川）	緊急車両

- (6) 対象とする温室効果ガス
二酸化炭素（CO₂）

2 平成24年度の取組結果等

- (1) 市の事務及び事業から発生するCO₂排出量の削減

ア 数値目標の達成状況

目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	前年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	目標値 (H33年度)	評価
1 CO ₂ 総排出量	t-CO ₂ (増減率)	8,616	9,092 (H22年度比 5.5%増)	8,858 (H22年度比 2.8%増)	7,757 (H22年度比 △10.0%)	△

平成24年度の市の事務事業に伴う二酸化炭素（CO₂）は、前年度（平成23年度）に比べて2.6%（234t-CO₂）減少しましたが、基準年度（平成22年度）と比較すると、2.8%（242t-CO₂）の増加となり、目標（10.0%（約900t-CO₂）削減）を達成することはできませんでした。

イ CO₂排出量の内訳

● 庁舎関係

目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	前年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	目標値 (H33年度)	評価
1 電気	kWh (増減率)	10,935,200	11,851,786 (H22年度比 8.4%増)	10,839,907 (H22年度比 △0.9%)	9,732,300 (H22年度比 △11.0%)	△
2 灯油	ℓ (増減率)	401,200	493,413 (H22年度比 23.0%増)	592,023 (H22年度比 47.6%増)	373,100 (H22年度比 △7.0%)	×
3 A重油	ℓ (増減率)	240,700	198,500 (H22年度比 △17.5%)	208,954 (H22年度比 △13.2%)	228,700 (H22年度比 △5.0%)	○
4 LPG	kg (増減率)	35,500	28,719 (H22年度比 △19.1%)	28,145 (H22年度比 △20.7%)	33,720 (H22年度比 △5.0%)	○
5 都市ガス	m ³ (増減率)	120,000	101,937 (H22年度比 △15.1%)	94,270 (H22年度比 △21.4%)	105,600 (H22年度比 △12.0%)	○
6 ごみ排出量	kg (増減率)	19,600	5,088 (H22年度比 △74.0%)	19,695 (H22年度比 0.5%増)	17,640 (H22年度比 △10.0%)	×

● 公用車関係

目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	前年度値 (H23年度)	実績値 (H24年度)	目標値 (H33年度)	評価
1 ガソリン	ℓ (増減率)	170,200	174,394 (H22年度比 2.5%増)	148,288 (H22年度比 △12.9%)	153,200 (H22年度比 △10.0%)	○
2 軽油	ℓ (増減率)	10,500	11,826 (H22年度比 12.6%増)	14,484 (H22年度比 37.9%増)	9,980 (H22年度比 △5.0%)	×

ウ 主な取組

- ① 東日本大震災を契機とする夏場の電力供給不足に対し、国の節電要請（中国電力管内 平成22年比△5%以上削減）を受け、出雲市役所でも6月1日から9月30日までの期間、「電気使用量 平成22年度比△10%削減」の目標を掲げ、集中的な取組を行いました。

● 取組内容

- ㊦ 冷房中の室温 28℃の徹底
- ㊧ 課ごとに任意の 1 時間、冷房を休止
- ㊨ 職員のエレベーター利用の自粛
- ㊩ グリーンカーテンやよしずの設置 など

● 期間中の取組結果（6 月 1 日～9 月 30 日）

年度	電気使用量	削減率
H22	1,399,397kWh	
H24	1,229,395kWh	△ 12.1%

- ㊪ 冷暖房設備の温度設定管理と室温の適正管理（夏期は 28℃、冬期は 19℃）の徹底に努めました。
- ㊫ ウォームビズ、クールビズの実践に努めました。
- ㊬ 不要な照明の消灯（昼休み、時間外など）の徹底に努めました。
- ㊭ 職員のエレベーター利用の自粛に努めました。
- ㊮ 両面コピーや縮小コピーに努めるとともに、ミスコピー紙や不要になった用紙の裏面を有効活用し、コピー用紙の削減に努めました。
- ㊯ 課ごとに重点取組項目（5 項目以上）を設定し、職場単位でのエコオフィスの推進に努めました。
- ㊰ 環境活動推進員を対象とした実務研修を行うとともに、課ごとに職場内研修を実施し、数値目標や取組項目の周知徹底に努めました。
- ㊱ 各課における取組状況の確認、評価を行うため、全 79 職場のうち 20 職場において内部監査を実施しました。
- ㊲ 庁舎における設備・機器の適切な運用管理の見直しを図るため、一般財団法人省エネルギーセンターが実施する「無料省エネ診断」を受診しました。

エ 課題と今後の方向性

省エネ診断の結果を踏まえ、庁舎の省エネルギー化を進めるため、平成 25 年 1 月、「出雲市役所本庁舎における省エネルギー行動計画」を策定しました。本庁舎の各種空調設備の運転開始時間をずらすことにより、使用最大電力のピーク時間帯の分散化を図ることとしたほか、空調の温度設定範囲に制限を加えたり、執務室や会議室等の蛍光灯を間引くなど、全庁挙げて電気使用量の抑制に取り組む内容を盛り込みました。

今後は、この行動計画や「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」に掲げた取組の更なる推進に努めます。

(2) 平成 25 年度における「通勤距離 3km 未満の市職員のマイカー通勤自粛」の取組
ア 数値目標の達成状況

目標設定項目	単位	基準年度値 (H23年度)	前年度値 (H24年度)	実績値 (H25年度)	目標値 (H28年度)	評価
1 ノーマイカー通勤率	%	43%	50%	54%	80%	△

平成 25 年度のノーマイカー通勤率は 54%となり、前年度（平成 24 年度）に比べて 4 ポイント増加し、基準年度（平成 23 年度）と比べると 11 ポイント増となりましたが、目標（80%）を達成することはできませんでした。

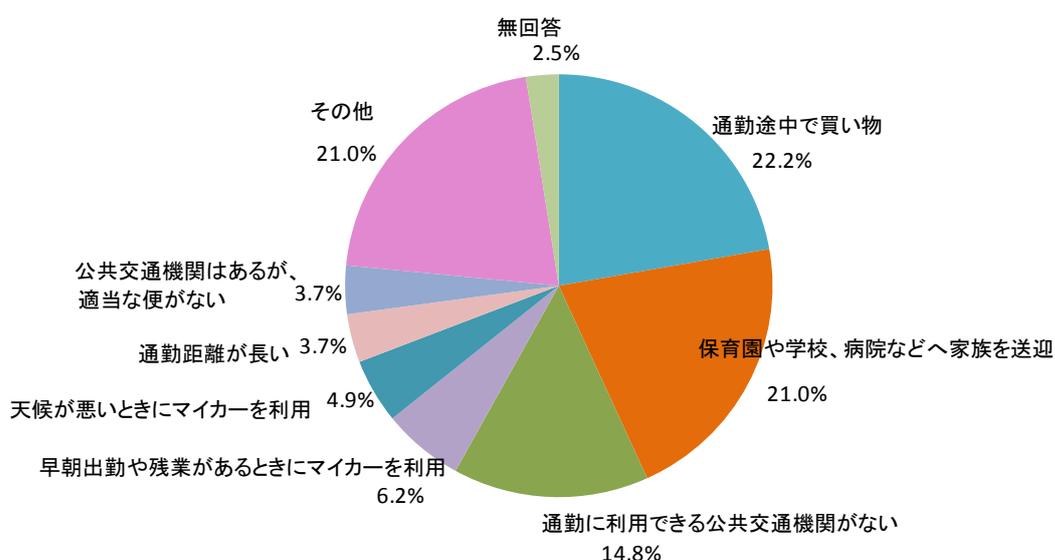
イ 主な取組

- ① 職員率先行動として、毎月第 3 週を「市職員エコ通勤ウィーク」と定め、徒歩、自転車、バイク、公共交通機関利用によるエコ通勤を呼びかけています。
- ② 「通勤距離 3km 未満の市職員のマイカー通勤自粛」を「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」に掲げ、該当する職員に協力を呼びかけています。

ウ 課題と今後の方向性

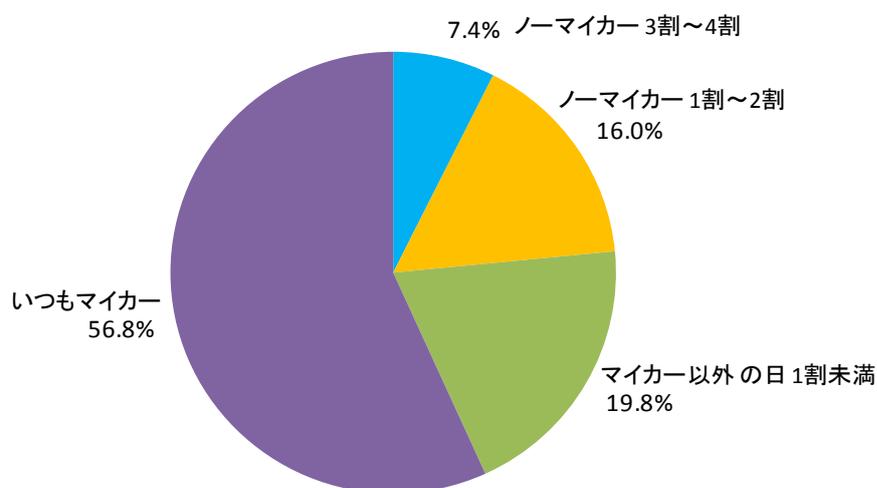
マイカー通勤については、職員の取組状況を把握するため、毎年度、アンケート調査を実施しています。平成 25 年 10 月に調査した結果によると、上記のとおり、通勤距離 3km 未満の市職員のうち、「ノーマイカー通勤」が 54%、「マイカー通勤」が 46%となりました。さらに、「マイカー通勤」と回答した職員にマイカーを利用する理由を尋ねると、多い順に「通勤途中で買い物」が 22.2%、「保育園や学校、病院などへ家族を送迎」が 21.0%となり、家事や育児を行う職員にとって、マイカー通勤からの転換が困難な事情を抱えていることがうかがえます。

「通勤距離3km未満でマイカー通勤」の職員がマイカーを利用する理由



一方、普段、マイカーを利用している職員も、その約4割は、日によって、徒歩、自転車、公共交通機関等、マイカー以外を利用していることが判明しました。今後は、これらの職員がマイカー以外の方法で通勤する日の割合を増やし、ノーマイカー通勤率を高めていくことが重要です。当該職員に「市職員エコ通勤ウィーク」や「県民一斉ノーマイカーデー（毎月1日と20日）」への参加を働きかけ、マイカー通勤自粛の取組を拡大していく必要があります。

「通勤距離3km未満でマイカー通勤」の職員がマイカー以外で通勤する日の割合





神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲

出雲市環境レポート 平成 25 年版

発行日：平成 25 年 12 月

編集・発行：出雲市文化環境部環境政策課

〒693-8530 出雲市今市町 70 番地 TEL：0853-21-2211（代表）

